

大項目	評価項目		自己評価平均		自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価内容	関係者評価後の学校側の考察・対策
			理学	作業				
教育理念・目的・人材育成	I-1	学校の理念・目的・人材育成は定められているか	3.6		広報活動等において学校理念・目的・人材育成は提示できている。しかし、実習施設に対しては一般的な人材育成提示となっているため、本校の特徴を今後明確にして伝えていく必要がある。学科の教育目標などは、随時業界動向に合わせて検討していく必要があるが、学生の動向に合わせてカリキュラム編成を行っている。合わせて、教職員にも理念・目的を周知してもらう。	4	適切である	学校が定めている理念等を学内掲示し学生への周知を図る。また、教育目標は学生や業界の動向を踏まえて見直しを継続していく。
	I-2	学校の理念・目的・人材育成・特色などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか (*関係業界とは高校、病院、実習施設等)	3.2					
	I-3	各学科の教育目標、人材育成は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3					
学校運営	II-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3		組織図や会議体制は整備できている。毎月管理会議を実施しながら学校運営を行っている。その内容については学科会議で他職員へ伝達している。情報のシステム化は不十分な状況であるが、現在もICTシステム委員会を設け、他校と情報交換を実施しながら委員を中心に取り組み始めた段階である。	3.4	ICTシステムは早めに取り組んでいく必要がある。	平成30年度はICTシステム構築委員会を中心として学内WiFi環境を整えていく。
	II-2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	3.1					
	II-3	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8					
教育活動	III-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.1		ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを掲げて教育課程を実施している。また、今年度からカリキュラム変更となったため、カリキュラム委員会を中心に科目内容の検討がなされ実施している。しかし、教員間で教育方法の工夫まで行うことはできていない状況であった。授業評価体制について、今年度から独自に作成した評価シートにて教員間授業評価を実施し、客観的な意見を取り入れながら教授方法の見直しを開始した。次年度は評価体制の見直しや実施による効果判定を行う必要がある。教員の研修会参加に関して十分出来ている状況ではないが、研修会参加後に他職員への伝達講習などは行っている。また、知識や技能の修得にむけた教員のレベルアップも図る。	3	今後も教育方法の工夫を継続していくように。	授業評価結果を踏まえ、Webを利用した学習環境整備を行っていく。また企業連携をより強化し現場の声を多く届けるなどキャリア教育に努める。教員間授業評価は継続して実施していき効果判定を行う。教員の研修参加を積極的に促していく。
	III-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.9					
	III-3	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.5					
	III-4	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3					
	III-5	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.7					
学修成果	IV-1	就職率の向上が図られているか	3.3		就職率100%を目標とし、就職担当職員を設け年間スケジュールを作成している。毎週の学科会議にて学生情報の共有を図っており、退学者低減やこまめな国家試験対策を図っていた。昨年度の学生満足度では、国家試験対策への満足度が低い状況であったため、学生代表と毎週実施する会議での学生意見も取り入れながら対策を行った。また、昨年取り組みに加えて今年の学生能力に応じた対策を実施していった。しかし、結果にうまくつながらなかったため、他校とも情報共有を行いながら次年度に生かしていく必要がある。退学率は非常に低い数値である反面、卒業までのハードルが下がる傾向もあり、国家試験においては、学科としても苦慮している。次年度に向け、1年生からの関わりや取り組みを再度見直す。在校生の社会的活躍の把握は不足している。	3	進級率などはよいので、国家試験結果にもつながるように、姉妹校と国家試験対策について連携を図っていくとよい。在校生の活躍を出身校などへ「先輩の活躍」として伝達していくとよい。	国家試験対策に関しては対策委員会を中心に内容の見直しを継続して行う。1年次から課目外時間の取り組み内容を工夫し、学習方法を変えていくなど早期に基礎学力強化を図っていく。在校生の活動状況も担任を中心に把握に努める。
	IV-2	国家試験合格率が良好であるか	1.9					
	IV-3	退学率の低減が図られているか	3					
	IV-3	在校生の社会的な活躍を把握しているか	2.4					
学生支援	V-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3		就職対策としては、年間スケジュールに基づきセミナー、就職説明会、見学会などを実施。昨年度就職した卒業生の施設や説明会参加施設への訪問を実施することで求人情報の集約も行った。学生からの相談対応は担任のみではなく、スクールカウンセラーの利用も促している。そのため、数名の学生はカウンセラーの継続利用が出来ており、必要に応じて担任との情報共有で学生のフォローをしている。保護者との連携も保護者会の開催を中心に実施しているがすべての保護者が参加していないこともあり、会議議事録による伝達となっている保護者もいる。一部の高校と研究発表のための連携を行っている。また今年度から練成会へのボランティア協力をするなど部活動との連携により理学療法士の職業理解を広めるためのキャリア教育を開始した。	3.6	引き続き、高校との連携を強化していくとよい。	就職支援は昨年同様企業との連携を図りながらさらなる情報収集に努め、学生の希望に合った就職が行えるようにしていく。平成30年度より学年主任を置き、より細やかに学生対応ができるよう連携していく。高校との連携は昨年実施した内容を継続発展させていき理学療法士の職業理解を広めていく。
	V-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.1					
	V-3	保護者と適切に連携しているか	2.8					
	V-4	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.3					
	V-5	修学支援体制が整っているか	3					
教育環境	VI-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.9		毎年、施設内の不足備品や破損箇所をチェックし修繕を図っている。臨床実習に関しては、実習委員を設け臨床施設との連携を図りながら、指導方法の標準化に向けた教育体制の見直しを定期的に行っている。臨床実習中の学生サポートに関しても頻りに施設訪問を実施している。今年度の臨床実習では全員が単位を取得することが出来た。また、一部の学生において、臨床で求められる思考過程に不足する部分があったが、実習後にも追加取り組みを行った。今後も臨床施設との会議を行いながら体制の充実を図る必要性あり。避難訓練も年に2回実施できている。	3.6	実習体制は整っておりよい。	平成30年度は教室の椅子を一部変更するなど環境整備計画中である。実習施設に関しては今後も連携を密に図りながらキャリア教育強化に努める。防災に関して、避難訓練を消防署員参加のもとで緊張感を持たせた訓練とする。
	VI-2	学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか	3.2					
	VI-3	防災に対する体制は整備されているか	3.1					
学生募集	VII-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3.3		パンフレットや適宜チラシなどを作成し、毎月高校訪問を実施する際に情報伝達を行っている。オープンキャンパス時にも国家試験合格率や就職率の具体的な数値を提示している。また、在校生から直接話を聞く場も設け学生視点での情報開示もできている。	3.6	ホームページの充実を図り、こまめに情報発信をしていくとよい。	こまめにホームページ情報を更新し高校生等が知りたい情報発信を行う。ブログやTwitterも継続して行う。
	VII-2	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.5					
財務	VIII-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3		年間予算を作成し、毎月予算状況役職者で確認を行いながら適切に運用を図っている。次年度予算に関しても、管理会議にて見直しを図るなど計画的に実施している。必要に応じて職員へ財務状況を伝達し予算の適切な運用に向けた意識付けを図っている。しかし、職員による認識の差も認められる。次年度はICT体制整備や学校環境整備など学生満足度向上に向けた計画を予算上でも計画している。	3.4	概ね適切である	今後も定期的に役職による会議を設け情報共有と職員への情報伝達を図る。広報活動に関する計画を随時見直し、適切な運用を行う。
	VIII-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.1					
	VIII-3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.2					
法令遵守	IX-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4		関係法令や指導要領に基づいた運営を行っている。施設基準に必要な備品の破損が起こった際には適切に修繕を行っている。個人情報の取り扱いに関しては、規定を設けており取り扱いには十分には留意するよう教職員や学生に対しても適宜オリエンテーションを実施している。	3.6	概ね適切である	今後も法令遵守しながら運営を行っていく。
	IX-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3					
社会貢献・地域貢献	X-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2		学生による地域での清掃活動を定期的に行い、海峡マラソンをはじめとしてボランティア活動も行っている。昨年以上に参加学生数は増えており、ボランティア活動への意識向上が図れている。学校施設を活用してもらうため担当窓口職員を設ける等手続き体制を整備し、各種研修会や行事などに使用してもらっている。	3.6	概ね適切である	学校施設を広く開放し地域貢献を継続していく。
	X-2	学生のボランティア活動を奨励しているか	3.4					